

# 食と農の変貌とJAの役割

～生命地域総合産業をめざして～

2023年**6月2日(金)** 13:00～18:00 **3日(土)** 9:00～12:00

会場 **JAビル4階 401会議室** オンライン参加可(zoom使用)

## 開催趣旨

平成から令和へ——、日本は急速な人口減、高齢化社会に突入した。食料・農業・農村も例外ではなく、大きな転換期を迎えた。

食の分野では、人口減、高齢化に加え、コロナ禍やロシアのウクライナ侵略により、食が大きく変貌しようとしている。単身世帯や貧困世帯の増加および生活スタイルの多様化を背景に食料需要・消費構造が大きく変化している。食の簡便化が進むなど、食料消費のありかたや流通のかたちも変貌している。以上のフードシステムの変貌に対応するためには、マーケット・イン型の産地振興が求められる。

農業・農村地域では、人口・農業労働力の減少、高齢化の進行および農地減少に歯止めをかけ、農業・農村の持続的な発展を促すことが最大の課題となっている。従来型の離農促進と大規模経営体のみを対象とした経営政策の限界が顕在化している。一部の大規模経営が点的な存在として生まれ、農地流動化が進展しているが、農地は減少し続けている。農業・農村の持続性と発展および農地保全のためには、大規模経営体、家族経営、兼業農家、高齢農家等の多様な年齢と経営の共存が必要となっている。離農促進から地域の様々な経営体の役割・機能を踏まえ、実情に合わせた経営支援を通じて、できるかぎり地域の経営体を維持・発展させる方向への転換が求められる。さらに、准組合員を含めた地域内および地域外からの新規就農も課題となっている。

これらの課題を推進するには、今こそ総合農協の出番である。基調報告で課題の本質をつかみ、優れた実践事例に学びながら、活発な議論を交わりたい。

## 発表者と発表内容

### 第1基調報告 フードシステムの変化とJAの役割

齋藤 修 (千葉大学 名誉教授)

フードシステムの変貌の動きを解明するとともに、そのもとでの農産物の消費・流通の変化を明らかにする。そのうえでJAの営農経済事業の改革の方向を提示する。



### 第2基調報告 農業・農村の構造変動とJAの役割

安藤 光義 (東京大学大学院教授)

日本の農業・農村の構造変動を踏まえ、農業・農村の持続的な発展と農地保全の方向について解明。そのうえでJAの組合員に対する経営支援、営農事業の改革の方向を提示する。



### 事例報告① 地域素材を生かした加工による中山間地域の活性化

柳沼 陽介 (新潟・山から(株)代表取締役)

果実専門店バイヤーから地域おこし協力隊を経てパンとおやつづくりへ。「おにぐるみ」など地域素材の魅力を生かし、中山間地の活性化に挑む。全国初の生協が出店する道の駅の運営にも携わる。

### 事例報告② 食との連携で広げる有機農業の取り組み

JAぎふ

消費者が求めるものを農家が栽培する「地消地産」を掲げてきた。今年度「みどり戦略推進室」を設置し、食と農に対する消費者の理解を醸成しながら有機農業の取り組み拡大に励む。

### 事例報告③ 営農センター化と今後の中核的農家との関わり

JA上伊那

総合産地として品質の高い農産物を提供し、また組合員・地域住民の暮らしを守るべく、営農センター制による営農指導の充実、行政・企業等ともコラボしながら支所・窓口の拠り所としての機能、利便性の向上などに努める。

## プログラム

1日目

6月2日(金)

- 12:00～ 受付
- 13:00～13:20 開会挨拶  
◆黒澤賢治 (JA 総合営農研究会代表委員)
- 13:20～14:50 **第1基調報告**  
**フードシステムの変化とJAの役割**  
◆斎藤修 (千葉大学 名誉教授)
- 15:05～15:50 **事例報告①**  
**地域素材を生かした加工による中山間地域の活性化**  
◆柳沼陽介 (新潟・山から 株代表取締役)
- 16:05～16:50 **事例報告②**  
**食との連携で広げる有機農業の取り組み**  
◆加藤敏雄 (JA ぎふ 営農部部長)
- 17:00～17:45 質疑・討論  
◇ ◇ ◇ ◇ ◇
- 18:00～20:00 交流懇親会 (別会場)

## 参加費

会員：12,000円 (交流懇親会費込み)

正会員・生産法人会員・団体特別会員で2人目以降は9,000円

非会員：17,000円 (交流懇親会費込み)

※ 事前にお振り込みください (振り込み先は別途お知らせします)。

または当日会場にて現金でお支払いください。

※ 参加費に宿泊費は含まれていません。宿泊は各自でご手配ください。

## 注意事項

- \* 当日、体調不良・体温が37.5度以上ある場合は、参加をご遠慮いただけますようお願いいたします。

## JA総合営農研究会に入会し、実践交流しませんか？

☆ 入会案内パンフレット (入会申込書付) がございますので、お問い合わせ・ご請求ください。

TEL：048-233-9336 (農文協 担当：嶋川)

★ 年会費

正会員 20,000円 \* 単位農協 (県1JAについては地区事業本部等)

生産法人会員 5,000円 \* 集落営農、農業生産法人

特別会員 団体50,000円 個人5,000円



JA 総合営農研究会ホームページ  
[ja-it.net](http://ja-it.net)

次回の公開研究会案内や過去の報告内容などを掲載しています。

2日目

6月3日(土)

- 9:00～10:15 **第2基調報告**  
**農業・農村の構造変動とJAの役割**  
◆安藤光義 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
- 10:30～11:15 **事例報告③**  
**営農センター化と今後の中核的農家との関わり**  
◆田中晋一 (JA 上伊那 伊那支所長)
- 11:15～11:50 質疑・討論
- 11:50～12:00 閉会挨拶  
◇ ◇ ◇ ◇ ◇
- 12:00～12:30 2023年度総会 (会員のみ)
- 13:00～15:00 2023年度 第1回運営委員会 (委員のみ)

## 参加お申し込み方法

JA 総合営農研究会ホームページ上の参加申し込みフォームからお申し込みいただけます。

JA 総合営農研究会

検索



申し込み締切 2023年5月26日(金)

※ 締切日を過ぎてのお申し込みは、事務局宛で相談ください。

問い合わせ先：JA 総合営農研究会事務局

(一社) 農文協 経営局文化活動グループ内

TEL: 048-233-9336 E-mail: info@ja-it.net

## 会場

JAビル4階 401会議室

▶ 地下鉄「大手町」駅 (地下1階にてC2b出口直結)



※ **JA 総合営農研究会** JA 営農経済事業の改革と地域農業の活性化に向け、全国のJA 役職員が課題を共有しながら先駆的事例を双方向に学びあう実践的な研究会。2001年に「JA-IT研究会」として設立。約40のJAを正会員とし、年3回の「公開研究会」と年1回の「人材養成セミナー」などを中心に活動する。2019年6月に「JA 総合営農研究会」と改称した。